



キュリー夫人の 家へようこそ

ワルシャワ、フレタ通り16番地

M. Skłodowska Curie



Muzeum
Marii Skłodowskiej-Curie
w Warszawie



博物館

ワルシャワにあるキュリー夫人博物館(マリア・スクウォドフスカ=キュリー博物館)は、2度のノーベル賞受賞者が生まれたその場所にあります。

博物館は18世紀に建てられた集合住宅の中にあり、そこはキュリー夫人の母親が女学校を構えていた場所でもあります。ノーベル賞受賞者であるキュリー夫人の、世界で唯一の伝記博物館です。

常設展ではマリア(フランス語名マリ)・スクウォドフスカ=キュリーの自筆のメモや手紙などの膨大なコレクションが並んでいます。マリアや家族などの写真、資料、私物も多く揃えています。展示品の中には、有名なポーランドの芸術家たちによる彫刻もあります。展示室の一部はパリのキュリー夫妻の研究室のようになっており、またピエール・キュリーが設計した測定器を見ることもできます。そのノーベル賞受賞者たちを記念した切手やメダル、紙幣を展示する場所もあります。博物館はコレクション収集の他、企画展や講演会、質問会、芸術関連イベント等の企画や、出版活動を行っています。

1. ヴワディスワフ・スクウォドフスキの金の懐中時計
2. マリアの母、マリアンナ=プロニスワヴァ・スクウォドフスカの、ユリアン=ウルスィン・ニェムツェヴィチュ編『歴史歌曲集』のノート
3. 私立女学校のあるフレタ通り、19世紀末
4. ゴフィア・ヴォルスカ作、マリア・キュリー、ピエール・キュリーの彫像



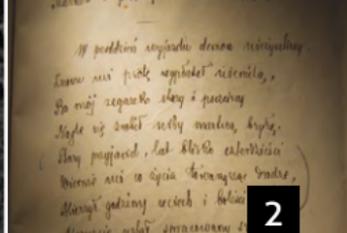
展示品

博物館にはノーベル賞受賞者であるキュリー夫人に関連する記念品のコレクションが豊富にあり、常設展や企画展において展示されています。

博物館に集められたマリア・スクウォドフスカ＝キュリーの私物の中でも、1921年にアメリカのポーランド女性協会から彼女に贈られた革製のバッグは特に注目に値します。さらに協会のメンバーはワルシャワの放射線研究所のために1000ドルを寄付しました。

館内ではマリアの父、ヴワディスワフ・スクウォドフスキの懐中時計や彼の詩のノートなど、マリアの家族の保管資料や思い出の品も展示しています。展示品の中には、マリアの母、マリアンナ＝ブロニスワヴァによる、J. U. ニェムツェヴィチュの『歴史歌曲集』を書き写した手書きのノートもあります。それは分割期におけるポーランドの独自の教科書でした。

-
1. エルシー・ミード氏に贈られたマリアのサイン入りの写真、1921年
 2. 革製のバッグ、1921年
 3. マリア・スクウォドフスカとヘレナ・スクウォドフスカ、1888年
 4. アメリカ合衆国大統領ハーバート・フーヴァーから贈られた置物、1929年



経歴

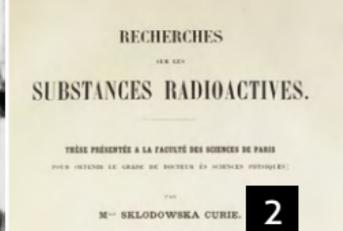
マリア・スクウォドフスカは1867年11月7日、スクウォドフスキ家の末っ子としてワルシャワで生まれました。

両親のマリアンナ＝ブロニスワヴァ・スクウォドフスカ(旧姓ボグスカ)とヴワディスワフ・スクウォドフスキは、フレタ通り16番地におけるの女学校の教師でした。幼いマリアはすでに4歳で読書をしており、中学校を最高の成績で修了して金メダルを授与されました。彼女は「空飛ぶワルシャワ大学」で勉強を続けました。これは個人宅で行われる秘密の授業でした。1886年から1889年にかけて、マリア・スクウォドフスカはシュチュキ村のジョラフスキ家で家庭教師として働いていました。稼いだお金は、パリで医学を学んでいた姉のブロニスワヴァに送られました。1890年にマリアはワルシャワに戻り、農工博物館の研究室で化学分析の基礎を習得しました。

1. マリアとピエールとイレヌ、庭のベンチでの写真、1904年
2. ヴワディスワフ・スクウォドフスキのノートの一部
3. ヴワディスワフ・スクウォドフスキの蔵書の一部
4. マリア・スクウォドフスカ＝キュリーの家系図



1



2



3



4

発見

1898年、キュリー夫妻は2つの新しい元素を発見し、それぞれポロニウム、ラジウムと名付けました。

1891年、ブロニスワヴァの招待で24歳のマリア・スクウォドフスカは物理学と数学を学ぶためにパリに赴きました。そこで将来の夫となる著名な物理学者ピエール・キュリーと出会います。6年後、娘のイレヌが生まれました。1903年、マリアは物理学の博士号を取得し、同年に放射現象に関するピエールとの共同研究でノーベル物理学賞を受賞しました。キュリー夫妻はラジウムを利用して悪性腫瘍を治療する「キュリー療法」を創始します。1904年にマリアは次女エーヴを出産しました。

2年後の4月19日、ピエール・キュリーは事故で不慮の死を遂げました。夫の死後もマリアは研究活動を続けました。放射現象の研究を行い、1911年に再びノーベル化学賞を受賞します。

1. 工作中的マリアとピエール、1903年
2. マリアの博士論文の表紙、1904年
3. キュリー夫妻の研究室のレプリカ、1974年
4. ノーベル賞証書、1903年



活動

マリア・スクウォドフスカ=キュリーはソルボンヌ大学で史上初の女性教授となりました。

学者マリアの努力により、パリにラジウム研究所が創設されました。第一次世界大戦の間、マリアはフランスやベルギーの野戦病院のために可動式の放射線検査システムを提供しました。彼女は人員にX線写真機の使い方を教え、自らも撮影業務を行い、現代の放射線学の基盤を作りました。

アメリカへの2度の訪問により、学者マリアはパリの研究所のための「1グラムのラジウム金属」(1921年)と、ワルシャワのラジウム研究所の機器整備のための資金(1929年)を得ることができました。そしてこのノーベル賞受賞者は1932年5月29日に正式に首都ワルシャワに施設を開設しました。

マリア・スクウォドフスカ=キュリーは1934年7月4日、フランスのサナトリウムで白血病により亡くなりました。彼女はフランスのソーにあるキュリー家の墓に埋葬されました。1995年にキュリー夫妻の遺体は、その功績をたたえられてパリのパンテオン宮殿に移されました。

1. ベルギーのホーフスターデの野戦病院のマリアと娘イレーヌ、1915年
2. X線管、1914年
3. ピエール・キュリーが組み立てたリーフエレクトロスコープ



1



2



3



4

#PoRaNaMarie

キュリー夫人博物館(マリア・スクウォドフスカ=キュリー博物館)は首都ワルシャワの文化機関です。博物館ではノーベル賞受賞者であるマリアと彼女の家族に関連した教育的及び文化的プロジェクトを実施しています。

博物館はマリア・スクウォドフスカ=キュリーと彼女の近親者たちの人生を様々な形で伝えています。特にモノドラマ『光線の中で、マリア・スクウォドフスカ=キュリーの知られざる手紙』はアルトゥル・パウイガの脚本に基づいたものです。劇は展示スペースで上演されます。博物館の努力で『マリア・スクウォドフスカ=キュリーの思い出から』というマリアの姉、ヘレナ・スクウォドフスカ=シャライの回顧録が出版されました。

博物館は長年にわたって「ロングナイト・オブ・ミュージアム」という国際的なイベントに参加しており、化学ショーやワークショップを開催しています。また研究や、科学と文化における女性のための事業を支援しています。さらにマリア・スクウォドフスカ=キュリーの血縁者との関係を維持し、彼らとの会合の機会を設けています。

博物館では研究者であるマリアに関連した本や記念品の販売も行っています。

1. 劇『光線の中で、マリア・スクウォドフスカ=キュリーの知られざる手紙』
2. ミュージアムショップ
3. 常設展の一部
4. キュリー夫妻の結婚写真 顔はめパネル



Muzeum Marii Skłodowskiej-Curie w Warszawie

〒00-227 ワルシャワ、フレタ通り16 番地

電話番号 : +48 22 83180912

電話番号 : +48 513 814 963

kontakt@mmsc.waw.pl

www.mmsc.waw.pl

 /mmscwarszawa

 /mmscwarsaw

開館時間

火曜～日曜 10:00～18:00

最終入館時間 閉館時間の30分前

